入選　　富山県　藤田　拓也　様　（大学生　男性）

私は大学生になり、通学の事情もあり、今年 70 歳になる祖母と一緒に暮らしている。祖母と一緒に暮らす前まで、私の年金に対する考えは、「どうせ、年金なんて、俺が受け取る側になるときには、今よりは受給金額は減っているだろう。それに、年金を受け取ることができる年齢も引き上げられるだろう。20 歳になってから年金を払うのは無駄だな。」である。一緒に暮らしているのだから、必然的に祖母とは話す機会が多くなった。私自身、両親からの仕送りで生活している身であるが、祖母が時々、祖母のお金で私のためにお菓子やアイスを買ってきてくれるのである。そんなことがあって、祖母の懐事情が気になるようになってきた。どうやって祖母は一人でやりくりしてきたのであろうか、思い切って祖母に聞いてみた。そうすると、祖母は年金が生活費の大部分を占めていると言った。今まで、「年金を頼りに生活している人」という目で祖母を見たことがなかったので、すこし衝撃を受けた。というのも、私にとって、年金は、受給者にとって微々たる役割を果たしているだけのものだと思っていたからだ。しかし、祖母にとって年金はとても大切な存在であったのである。このことを機に、私は年金について調べてみた。すると年金受給額は、金額ではなくそのときの価値で決めるらしいことが分った。確かにそうやって決定しないと、ハイパーインフレがやって来たとき、もらえる年金だけでは生活にかかるお金と見合っていないという事態に陥る可能性が考えられるだろう。反対に、デフレの時は、多すぎることが生じることも考えられるであろう。年金について、いろんな事を調べていく内に、どんどん自分の抱えていた年金に対する誤解が解けていった。ただ、私がこうした年金に対して関心を抱いたのは、身近に年金で生活の大部分をやりくりしている祖母がいたからである。しかし、多くの大学生が、私のような機会が身近にあるかと言えば、そうではないであろう。年金の大切さをより強く伝えるためには、祖母と孫など、年金受給者とそうでない者が年金について話し合う機会を、より多く設ける必要があるのではないかと思う。私自身、年金について誤った知識や、

考え方を祖母と話し合うまでもっていた。それに今まで、年金について家族と話し合う機会もあまり無かった。学校などで、親子で、孫と祖母で、年金について考える機会を設けるといいのではないかと思った。そうすることで、自分にとって身近な、大好きな家族が年金に支えられて生活していることを知る良い機会になるだろう。そして、年金に関心が集まるだろう。

大学生の間は、年金の支払いの猶予を受けるつもりだが、社会人になったら必ず年金を払っていこうと思う。なぜなら、私が払った年金は、私の大好きな祖母のために役立ってくれることは、明らかであるからだ。私に年金について関心を抱かせてくれた祖母に、感謝したい。